

第 14 号

発行
富士市消防団

富士市永田町1丁目100番
電話(0545)55-2851
(0545)55-2852
FAX(0545)53-4633



消防団だより



富士市消防団長 早坂千賀夫

地域に密着した 魅力ある消防団

消防団長 早坂 千賀夫

消防団員の皆様には常日頃、地域住民の生命身体の安全及び財産の保全のため、日夜献身的にご尽力されており、そのご苦労に対して心から感謝申し上げます。

消防団は昭和二十三年に自治体消防として発足し、平成十五年度で五十五年という節目の年にあたり、十一月二十日全国の消防関係者が東京ドームに集い、二十一世紀を迎え初めての記念大会が開催されました。大会のスローガンは「つながり 愛 勇気 ちから」。このスローガンこそ、地域住民が現在の消防団に求める理想の姿ではないかと思うところであります。

当市消防団においても二市一町が合併し、三十六年という年月が経過し、人間で申すなら一番頑張り、活動できる年齢と思われれます。新市発足当時は火災出場も多く、団員も多く入団していましたが、火災現場では、ベテラン団員に叱られながら消防技術の向上に励み、明け暮れたのが懐かしく思われます。

近年は社会経済の変化と共に消防団を取り巻く環境も大きく変化し、消防技術の科学化、高度化の時代に入り、消防団員の火災現場での消防活動は、訓練なしでは考えられなくなりました。又全国的に小規模市町村の過疎化、企業の就業構造の変化による若人の消

防団に入団する人員が減少している今日、各地で地震、風水害の被害に地域住民が苦しみ、消防団の活動に寄せる期待が高まっており、若い団員確保が一番の課題ではないかと思えます。私も消防団の責任者として、団員数の減少を少しでも改善するために、地域住民や若人に魅力ある消防団を築き上げると共に、より地域に密着した消防団とするため、自主防災組織や住民と協力して、防災の訓練指導を行い、住民の信頼を得ていきたいと考えております。

富士市消防団もここ数年団員の減少が続きましたが、十五年四月より各分団長、団員の協力と地域の皆様のご理解により団員が増えつつあり、十二月現在で八百十五名に達しました。

各地より選出されました若人団員に技術訓練を指導し、同時に団員一人一人が富士市消防団員である誇りを持って活動できる消防団にしてまいりたいと考えていることと共に、全団員の一層のご支援と御協力をお願いいたします。

みんなの力で笑顔まんてん。
わたしのまちの
消防力。

100万人への輪に加わろう。
消防団員募集

総務省消防庁・財団法人消防科学総合センター
協賛 ● 日本宝くじ協会
宝くじの収益金は、身近な街づくりに役立っています
<http://www.fdma.go.jp/syobodan/>



出初式に参列する勇姿(消防団員)

消防訓練大会



県大会を終えて

第三分団 団員 青山 薫

富士市消防団小型ポンプ操法のスタンダードを創る。その操法で県大会入賞を果す。この三点を目標とした訓練は、楽しい作業の連続でした。溢れ湧き出るアイデア。そのアイデアをふんだんに取り入れての訓練、指導員の皆さんと知恵を絞り合い鍛えに鍛えて、現時点では富士市消防団小型ポンプ操法の最高の訓練ができ、一つ目の目標は果せましたと言っても、そんなに怒られないかなと思えました。しかし、二つ目がいけなかった。本番に肝心要

の操法が披露出来なかった。「大会で入賞以外は全てゼロ。本番がダメなら、今までやってきた事は水の泡。」勝つ為の環境を整えて下さった役員の皆様、熱心な御指導をして頂いた指導員の皆様。そして、十四ヶ月間選手の方々の皆様に力強く押し続けてくれた方面隊の皆様。皆の期待に答える事のみでしか、御恩返しが出来ないのに。
無念。しかしながら、結果がゼロであつても、御支援下さった皆さんと至福の間を共に過ごさせて頂いた思いと感謝の気持ちは無限大です。本当に有難うございました。
そして、近い未来、富士市の操法が県で勝つ事を祈念して、富士市万歳！

訓練大会(礼式の部)について

第十分団 団員 金子 真一郎

「集れ！」指揮者の号令の下に二十人の列員が団結する。
今日は支部大会。約十分間の隊列行動が繰り広げられていく。富士市の大会に於いて優勝する事ができ、支部大会への出場が決まった。
思いおこせば、今回初めて規律の選手になり、最初は思ったように体が動かず大変でしたが、指導員の方に基本動作から、細かい所まで教えていただき、練習を積み重ねていく事により、だんだんと全員の動きが一つになっていくようになり、自分以上の時には、自分だけ上手にできなく、指導員に指摘され悩んだ事もありましたが、練習を続ける事により少しずつ自信がつかっていききました。

いよいよ演技が始まった。市の大会もかなり緊張しましたが、支部大会は言葉では言い表せないほど緊張してしまいました。今までの練習で行ってきた事を一つ一つ思い出し指導者の号令に従い、落ち着いて体が自然と動いてくれました。「別れ！」指揮者のこの号令で演技は終了しました。終わってみるとほっとした気分です。



平成15年度 富士市消防団訓練礼式並びに消防操法大会「訓練礼式」(富士市公設地方卸売市場駐車場)

いでした。
いよいよ結果発表。「優勝」この言葉聞いた時の感動は今でも覚えています。優勝バッチを手にした時の重みは忘れる事ができません。
冬の寒い時や、日曜日の早朝練習など、頑張ってきた成果が出て本当によかったです。
今後も、今回の訓練で学んだ規律と団結を生かして、これからの消防団活動に役立てていきたいと思っています。
最後に、長い間指導をしていただいた指導員の方々、応援していただいた分団の皆様、どうもありがとうございます。

訓練指導員抱負

団本部 部長 飯田 茂樹

私が担当するのは、火災現場に於いて、ポンプ車両が入れない場所や消火栓が近くにない場所、防火水槽・川や池などから水を引き上げ、消火に活用する小型ポンプの指導員です。訓練大会では、私の方針に指導員になつた七年前に、空操法から水出し操法に変わり、より火災現場に活用しやすい操法になりました。
この度、本部指導員に任命されたので、七年間の経験を生かし、今まで先輩方に指導していただいた事を参考にしながら、改善する所は積極的に改善していくと共に一人一人の意見を尊重し、同じ視点に立って指導にあたっていくと思います。
どれだけ早く、無駄なく水を出し、消火活動に役立てるのかという事を常に頭に置き、指導していきたいと思ひます。



富士市訓練大会

第四分団 団員 佐野 嘉紀

平成十五年五月十八日富士市訓練大会が行われました。

入団して二年半、数回火災現場には出動しましたが、消防車を自主的に動かしたことはなく、火災現場でも言われることにしたが作業するばかりでした。冬の夜警の季節は、仲間と会えることが楽しみでしたが、消防に関する知識や作業ができない自分に不安を覚えながら、火災がないことを心から祈っていました。

十四年十月、第四分団が大型ポンプ操法に出場するにあたり、選手を選出することになったとき、自分自身不思議なぐらい素直に手を挙げることで、きました。今まで消防団に属しながら、火災の際に感じていた不安や葛藤が解

決できる！自分にはこの上ないチャンスだと感じたのです。

しかし、考えた以上に訓練は大変なものでした。毎週三回の訓練と、時間的節約に加え一つ一つの動作をきっちりこなしていくことは思った以上に難しく、自分の体が思い通りに動かないふがいなさを感じました。一つの動作に集中すると、その前後の動作がおろそかになる。決して大げさではなく、自分不信に陥りそうになる苦悩の日々と言えぬ毎日でした。ただ、仲間と会えることが、心の支えでした。しかし、うまくいきません。自分が完璧だと思つた動作も、仲間との息が合わず、タイムが縮まらない。

時には、不満を抱えながら訓練を続けたこともありましたが、大会が近づくとつれ、期待と不安が睡眠を妨げ、何となく気持ちの休まらない日々がつかまきました。正直、大会当日を迎えたと、今日で楽になれるという、何とも言えない安堵感を感じたくらいです。

大会の操法については、ほとんど覚えていません。ただ、放水してから標的が倒れるまでの時間の数秒間が非常に長い時間に感じられ、その気持ちは今でも鮮明に覚えています。水が放水されているのに標的が倒れない！どうにもできない自分のたえようのない不安、仲間にたいする申し訳なさ、見られてる恥ずかしさ、何とも言えない限りない不安が自分の心の中で渦巻き、数秒を、数分、数時間、永遠にさえ感じさせる瞬間でした。

結果は、決して良いものではありませんでしたが、自分自身非常に満足しています。

この訓練のおかげで大型ポンプの操法も覚えましたが、それ以上に仲間とのコミュニケーションが取れたことが幸いでした。仲間意識が非常に目覚め、今まで以上に消防団活動に、誇りが持てるようになりました。

消防団の活動服が新しくなりました

平成15年11月1日より消防団の活動服が新しくなりました。

より消防らしさをアピールするため、随所にオレンジを配色してあります。若々しくて活動的なイメージに仕上がりました。



小型ポンプ 県大会出場

第三分団 団員 松山 虎造

入団二年目の私は、まだまだ新人でありながら小型ポンプの選手に抜擢され、県大会まで出場する事ができました。

方面隊の代表としてまた、市の大会が私自身初めての経験で、かなりのプレッシャーと責任の中での優勝、支部大会も優勝出来、ここまでの道のりは順調では無かったけど、日々の練習と五人のチームワークと周りの方々の協力が一つとなった結果で出来ました。

新入団員の私にとってすごくうれしかったです。いよいよ県大会開催は当初の予定から三ヶ月延期の十一月で会場はエコバスタジアムここまでに一年二ヶ月もの間練習に励んできたおかげで、タイム的にも精神的にも、どのチームにも負ける事の無い実力をつけ望んで行きました。大会当日初めて見た会場の光景は、自分が想像していた以上に重圧感があり、各チームの熱意が伝わって来て、さすが県大会だと改めて実感させられました。

いよいよ私達の操法を見せる時が来



ました。風が強く、周りの観客の注目の中、自分達が練習でやった通りの操法で望みましたが、県大会の壁は厚く、普段ミスをしないうような所での失敗もあり、結果は上位三位にまで入る事が出来ませんでした。初めて出場した小型操法でこの県大会まで来れたこと事態私にとって大きな誇りです。

今こうして県大会を終えてみると周りの方々を支えてもらい、沢山の仲間

が出来た事、また、消防のすばらしさを教えてもらった事です。

これからも消防活動の中でまた自分が選手で選ばれた時には、県大会出場の想いや経験を生かして頑張っていきたいです。

富士市訓練大会 (小型ポンプの部)について

第二十三分団 団員 矢崎 康隆

第六方面隊の代表として出場する事になり指揮者として優勝を目指すには、練習量に耐えられる若い団員を選ぶべきでしたが、分団の団結も考えて順番どおり中堅の団員を起用しました。

詰所でポンプ回りと規律だけの練習で後は富士市公設市場で指導員に教えてもらえば変なクセも付かず印象も良くなると思い考えでいました。公設に行くとかラ操法の頃と違い一隊ずつの練習で時間がかかり他の方面隊に迷惑をかけ、責任を感じ不安になりました。しかし熱心な指導のおかげで意外にも早く上達し、初めて水が出た時には、感動しました。


皆、仕事の都合をつけての練習は大変だったけれどケガ人も出さず、大会に望み滅多に味わえない緊張感の中で無事出来た事は、多少反省する点もありましたが、皆やり遂げたという達成感があり大変良かったと思えました。

私たち分団は、火災出場が少なく訓練大会があると必然的に消防団活動に出る機会が増え練習後の反省会など新入団員との親睦も深まり次回出場する時には、私たち以上に団結して良い成績を出してくれると思います。

今回お世話になった指導員、第六方面隊の皆様にお礼と感謝を申し上げます。



ポンプ車操法の部




2番員 3番員 4番員 補助
1分団 団員 1分団 団員 1分団 班長 1分団 団員
鈴木 崇史 豊島 大輔 白壁 仁 林 直也

指揮者 1番員
1分団 班長 第1方面隊長 1分団 団員
藤田 克秀 井出 靖和 渡辺 高志

平成十五年
度
富士市消防団訓練
礼式並びに
消防操法大会に優勝
した各種目別選手


小型ポンプの部



指揮者 3番員 補助
第1方面隊長 2分団 団員 3分団 団員 2分団 団員
井出 靖和 佐野 文彦 青山 薫 遠藤 邦彦

1番員 2番員
2分団 団員 3分団 団員
加藤 弘 松山 虎三

訓練礼式の部



指揮者 10分団 部長 鈴木 誠	後列1番 9分団 団員 山田 典彦	後列2番 8分団 団員 高橋 智巳	後列3番 9分団 団員 芹沢 弘晃	後列4番 9分団 団員 佐藤 裕一	後列5番 8分団 団員 石川 友也	後列6番 8分団 団員 鈴木 浩之	後列7番 9分団 団員 加藤 冬人	後列8番 8分団 団員 高橋 信幸	後列9番 11分団 団員 山崎 誠	補助者 10分団 団員 影島 克己	補助者 8分団 団員 伊藤 孝典
右翼教導 11分団 部長 山本伊知郎	前列1番 11分団 団員 秋山 真之	前列2番 10分団 団員 鈴木 克英	前列3番 10分団 団員 高橋 秀典	前列4番 10分団 団員 金子真一郎	前列5番 11分団 団員 岡本 淳宏	前列6番 10分団 団員 本田 成和	前列7番 9分団 団員 山口 雄一	前列8番 8分団 団員 芹沢 晴彦	前列9番 11分団 団員 石川 隆正	左翼教導 10分団 団員 仲神 康友	補助者 9分団 団員 松下 厚作



第17分団詰所前にて

我分団として重要な問題が有ります。それは、会社員が全体の七十%を占め、昼間の火事への出場が少人数である事です。少しでも、団員数を増やしたいのですが、なかなか入団してくれる人が見当たりません。それぞれの地区でも同じ問題を抱えていますので、地区の皆様のお協力を願います。

我分団は、富士市南西部に位置し在籍人員は、総勢二十四人です。地区との触れ合いとして、みなと祭りが有ります。今年も朝から岸壁に転落防止のトラロープを張り、夜は花火見学をよそに警備に没頭し今年も事故が無かったことが幸いでした。分団内のコミュニケーションとして、慰安旅行以外に「消有会」と称し積立てを行い、年一回旅行を実施しています。消防活動に参加するにあたり家族の理解、協力が必要と感じます。これからは、家族ぐるみの行事をより一層実施し、消防団行事への参加を呼びかけていきたいと思えます。

我分団は、富士市南西部に位置し在籍人員は、総勢二十四人です。地区との触れ合いとして、みなと祭りが有ります。今年も朝から岸壁に転落防止のトラロープを張り、夜は花火見学をよそに警備に没頭し今年も事故が無かったことが幸いでした。分団内のコミュニケーションとして、慰安旅行以外に「消有会」と称し積立てを行い、年一回旅行を実施しています。消防活動に参加するにあたり家族の理解、協力が必要と感じます。これからは、家族ぐるみの行事をより一層実施し、消防団行事への参加を呼びかけていきたいと思えます。

第十七分団 部長 永戸 俊光





十三分団のお父さん

第十三分団 富士第一小五年

植木 雅代

私のお父さんは十三分団で消防の活動をしています。でも私は今までお父さんが消火作業をしている所を見たことがありません。この間、近くで火事があつた時は、夜中だったので私は寝ていて気が付きませんでした。「なんで起こしてくれなかったの」とお母さんに言ったらおこられました。そんなに火事があつたら困るけど、一度はお父さんが出動しているところを見たいと思っています。

冬の夜警の時、消防車が家の前道を通ります。当番の日、運転をしているのは大体お父さんなので、「カーンカーン」と近づいてくる音が聞こえる時々玄関へ出て手を振ります。前にお母さんと妹と三人で見ているら「何もみんな出てくることないだろう」とお父さんに笑われました。夜警は帰ってくるのが遅くなるので次の日なかなか起きられないけど、頑張ってお仕事に行くのでとても大変なことだと思います。私は八時間ぐらい寝ないと思います。

お父さんは火事の広報を携帯電話に届くようにしています。着メロは「甲子園のサイレン」です。何にしようかいろいろさがしてこれになったそうです。一番大きい音にしてあるので初めて聞いた時は、私もお母さんも妹もどこで鳴っているのかわからなくて「何が起こったの?」と、とてもびっくりしました。いろんな着メロの中からこの音を見つけたお父さんはすごいと思

いました。

又私は、ソフトボール大会や消防まつりを見に行くのは大好きです。お父さんは仕事であんまり練習に出られないけど大会には選手で出ています。私はキャッチボールぐらいしかできないし、ソフトボールのルールも良く知らないけどみんなで一生懸命応援します。今年はまだ去年やつた興津川のパーベキューはとても楽しかったです。私も妹といろいろお手伝いをしました。お父さんはパーベキューで焼きそばを作るのがお母さんより上手です。大きい鉄板で一度に五袋も作るけどとてもおいしい焼きそばができません。海でも遊びました。水が冷たかったけど楽しかったです。来年は行けたらいいなと思います。

変身お父さん

第八分団 吉永第一小六年

本多 健人

ぼくのお父さんは、八分団に入っています。広報が鳴って、出動命令が出ると消防団員に変身します。

広報が聞こえると、すぐに仕事をやめて、火事になった現場へ消防車に乗ってサイレンを鳴らしながら駆けつける。炎とたたかう消防団員に変身したお父さんは、いつものお父さんよりかっこいいと思います。だから、「がんばって」と言ってくれます。

炎とたたかかって帰ってきたお父さんは、ちょっとほこらしげです。そんなお父さんを見てみると、ぼくもお父さ

家族はサッカー

第一分団 吉原第一中一年

白壁侑香里

私のお父さんは、私が生まれる前から、消防団員をやっています。

「カーンカーン」と広報が流れるとお父さんは仕事の手を止めたり、私と話をしている時でも、広報に耳を傾けて真剣に聞いているので会話が止まってしまいます。「第一分団」と流れるといつのまにか、私の前から姿を消してしまいます。そのたびに私は、けがをしないか、とても心配しています。お父さんが出かける時、家族のみんながそれぞれ、屋上や窓からけがを近くで出していないか、見たり、その間、



んみたい消防団員に変身して、人の命や建物やその中にある物や思い出を守りたいです。そして人のために炎と

たたかっているほこらしげな気分になってみたい。

お父さんは、訓練や夜警のために夜

出かけることが、一ヶ月に何回かあります。お父さんがいない時は少しさみしいです。でも、人の命や生活を守るための訓練や夜警なので、ぼくたちは、がまんするので、お父さんもがんばってください。

たいへんなこともあるけれど、消防まつりや地区の行事の参加など、楽しいこともあるのでこれからも体に気をつけて続けてほしいです。



お店の留守番をしたりして、お父さんが帰ってくるまで待っています。私たち家族は、お父さんだけでなく、家族も協力して、がんばっています。

ソフトボール大会

第二十一分団 班長 山本 明広

平成十五年十月十九日、富士川緑地公園にて、「第二十八回富士市消防団ソフトボール大会」が、秋晴れの空の下、スローピッチルールで行われました。前回の二十七回大会では、我々二十一分団は、三位という成績を納めたので、上位目指して練習も行ないました。

自分は、キャプテンなので監督と相談し、経験のない人や当日仕事等で参加出来ない人も考慮し試行錯誤の上、スタメンを決め試合に臨みました。第一試合という事で、気合が入りすぎたのか、思う様に体が動かず、上位入賞どころか対三分団に一回戦で敗退してしまいました。



我々二十一分団は、「訓練操法、消防まつり、ソフトボール」と色々な行事に熱くなる分団なので、一回戦敗退という事は非常に残念でした。でも、ソフトボール大会を、通じて分団の士気はさらに高まり他分団との親睦も深まり、非常に充実した一日になりました。この士気をもっと深め、消防活動に活かし、火災現場等で、チームワークにつなげたいと思います。

次回大会では、今回優勝した二チームを目指し、良い成績を残したいと思っています。

これから、火災予防週間、夜警等が始まりますが、初心を忘れるな事なく消防団活動に励みたいと思います。

新分団長の抱負

第十六分団

分団長 望月 章一

去る四月二日に、早坂消防団長より分団長としての辞令書を頂き早や六ヶ月を経過しました。当然の事ながら責任の重さを実感しているのが本音であります。

分団長になったからと言って、急に分団の運営方針や団員の意識を変えられるものでは有りませんが、常に時事問題を捉え状況判断が出来るような分団運営を意識していきたいと考えています。また団員と全ての情報を共有化することにより、より一体となった分団運営が出来るものと確信しています。我が十六分団も、少しずつではありますが若返りが進んでいます。過去の伝統には囚われずに、「意識と質」の



向上を目指した分団運営を行なって行きたいと思っています。

また、第五方面隊としての活動についても、他の分団と連絡を取り合っ、乗り遅れないように行きます。

第九分団

分団長 佐藤 彰信

我、九分団は、市内の東端に位置しまた田園風景の多い、閑かな地域で団員、OBにも農家の人が多く何処となく、家族的な雰囲気の中で上下の関係も、上手く出来ている様に思います。

二十数年ぶりに、訓練礼式の部で県大会に出場となり、数多い練習で、三方面隊及び分団の連帯感、団結心が、より一層強くなってきた様に思われます。

そんな中、区民体育祭で地域の皆様に、披露する事が出来。町内会長様はじめ、御協力頂いた皆様に、大変好評でした。

それから、難題だった、詰所での飲酒をスムーズに禁止出来たのも、役員の皆様の協力の賜物だと、感謝して居ります。

最後に、昨年自ら入団してくれた団員が、分団に爽やかな風を吹き込んでくれています。

これからも、消防団に入団希望する人が増え、いつも大勢で活気のある分団になる様望んでいます。

第六分団

分団長 内山 英孝

分団の組織は普段はそれぞれが生業を営んでいる者の集まりで構成されている組織であるからそれだけに分団管理は難しい。

地域住民の消防団に寄せる期待は増大しております。分団長として部下を指導育成し後継者作りにも配慮し優秀な人材の確保も重要です。来るであろう東海地震等いかなる災害時であっても地域住民の皆様の御理解と御協力が必要だと思えます。町内の中に私設消防隊が有りますが、そこに若者たちがたくさんいます。私設消防団の人達が私設消防隊に入団させています。



また、私設消防隊は四十才で退団できるため消防団には今の若者達がなかなか入団してもらえないのが現実です。しかし、今年、私設消防隊より、消防団と共同訓練をして下さいとの要請を受け指導しています。消防団がなぜ訓練するか、防災の第一線を担う消

ラッパ隊員になって

第十八分団 遠藤 真輝

自分はこの四月にラッパ隊に入隊しました。しかし、今まで楽器には無縁の生活で、当然ラッパを吹いたこともなく、不安の中での入隊でした。そして、初めての練習、やはり音は、出ませんでした。思っていたよりもラッパを吹くのは難しく、ますます不安になった自分に先輩は優しく指導してくれて、練習が終わる頃にはどうにか音を出す事が出来ました。それから練習を続けていますが、高い音は出ないし曲にもなっていません。しかし、入隊した時の不安はもう有りません。隊長をはじめ先輩方の熱心な指導と温かい励ましの言葉のおかげです。

まだまだ未熟者ですが、一日も早く一人前のラッパ隊員になるようにこれからも練習のラッパ隊員としてのラッパ演奏ですが、自分はまだ音が出ないし曲にもなっていません。演奏が出来るように練習をし、ラッパ隊員として早く活動出来るように、頑張りたいと思います。

第十五分団

分団長 高野 正仁

防団はあらゆる災害に的確に対応できるようにするため火災発生時も団員に怪我等なく活動出来ます。若い時に消防団に入ってから私設消防隊にはいれなくなっていくと思います。同じボランティア組織が親睦を計る事は大変良い事だと思えます。水災及び地震発生時に大きな被害がない様に分団員として課せられた使命と責任の重大さを深く認知し、決意をもって一致団結して地域の安全に今後一層の努力をするつもりです。

私は、昭和五十六年に消防団員として入団し、早くも二十余年が経ちました。入団してすぐに先輩方のご指導のもと、規律・小型ポンプ操法の要員として訓練に励み、小型ポンプ操法では、

県大会まで行くことができました。その間多くの火災にも出場しましたが、その度火災のすごさや恐ろしさを実感しました。最初の頃は、広報での出場がかかると慌てるばかりでおろろしながら無我夢中で出場したものでした。大切な命や家族の築きあげた大切な財産を失ってしまう火災現場は、言葉にならないほど悲惨なものがあります。

そのような火災現場に出場する団員の身の安全を確保しながら、十五分団を総括していかなければならない最高責任者である分団長を担うこととなり、身の引き締まる思いと責任の重さを感じています。

歴代の分団長で、大先輩方の皆様が築き上げた良い伝統を守りつつ、新しい時代の分団運営に、これからも努力していきつくりたいです。今年度、新たに四名の活力あふれる新入団員も加わりました。地域・家族のみなさんの御理解と御協力を頂きながら、消防活動を進めていきたいとおもいます。

新入団員研修を終えて

第二十分団 団員 影山 幸司

消防団に入団し、右も左も分からない状態で、消防団訓練大会の手伝いに出かけました。先輩団員の訓練風景を眺め、あまりの非日常的な行動を見せつけられたとき、軽い気持ちで消防団に入ったことを早くも後悔してしまいました。

五月十一日、新入団員教育当日、いったいどんなことをするのだろうと不安と緊張に包まれ富士市公設市場へと出かけました。消防団長の挨拶と訓示から始まり、消防団についての講義を受けました。午後からは屋外にて訓練礼式、小型ポンプ・ポンプ車操法を指導員のもと体験、見学を行いました。特に訓練礼式は、ちぐはぐな行動となり改めて先輩団員の訓練された姿に感服いたしました。



公設市場2階会議室

消防団の活動は、ボランティアとは言え、いったん火事場に出場したら生命の危険にさらされる恐れがあると一言わざるを得ません。そのため規律やチームワークといったものを身につける必要があります、皆必死で体にあたきこんでいると感じました。私は今日までにまだ炎上した火災現場へは出場したことがありません。いざというときに、消火活動の邪魔にならないよう、又少しでも役に立てるよう努力していきたいと考えています。

「一人でも多く、地域に消防の経験者がいたほうがいい」

消防団のバトンを渡された先輩に言われた言葉です。消防団は地域に密着した組織であり、自主防災という意味では地域住民一人一人が「自らの地域は自ら守る」という意識が必要だと思います。自主防災のリーダー的存在が消防団員だと感じています。技術的なものは訓練により身につけ、防災への意識は日ごろから家族や友人たちと高めていきたいと思っています。

新入団員教育

第二十分団 団員 井出 光俊

五月十一日、富士市公設市場にて新入団員教育が行なわれました。私の分団からは、三名が受講しました。

最初は消防団長の挨拶と訓示を聞き、消防団員としての責任と心構えを副団長より聞きました。

消防団員としての大切な話や今までの消火活動の話などを聞かせて頂き入団時の甘い気持ちが薄れていき消防団



員としての使命感が芽生えてきました。その後屋外にて各個訓練、部隊訓練、ポンプ車・小型ポンプ操法を指導員の方々から学びました。

部隊訓練では一つ一つの動作に細かな決まりがあり、覚えるのに苦労しましたが、何回も訓練をしているうちに何とか出来る様になりました。

又、ポンプ車・小型ポンプの操作の指導では、各部分の取り扱いやホースの伸ばし方・巻き方・運び方について細かく教わり放水時の姿勢等も学びました。

今日一日、学んだ事により入団してから疑問に思っていた事や知らなかったことを知ることが出来一安心しました。

まだまだ不安はありますが、日頃から災害に気を配り、心を感じた事を忘れず先輩団員の方々に色々教わりながら火災が起きたときには迅速かつ、慎重に消火活動が出来る様に努力し少しでも早く地域に貢献出来る様に頑張っ

夜警について

第五分団 団員 池田 照彦



私は、平成14年9月1日に入団しましたので夜警の経験は浅いですが、諸先輩方から聞いた話を含めて、夜警について書きたいと思います。まず夜警とは、火災多発期夜間特別警戒の略であります。警備時間は、午後8時から午前0時までで、最初にすることは、詰所の外や中の掃除です。次に、消防車の点検をし、パトロールをします。このパトロール時間は、9時までと決まっていますので、広範囲を受け持つ分団では回りきれないところもあるそうです。詰所に、帰って来たら日誌を書きます。そのあとは、詰所待機となります。そこで、何をしているかと問う人もいますので、それに答えします。最初に、書きましたが、私は、新入団員なので先輩方の今までにあった火災現場での話を聞いたり、日ごろの消防団員としての注意点を教えていただいたり、なにかとためになる話をしてもらっています。以前は早朝5時までが警備時間でしたので、寒い詰所に泊まっていかなければならないし、当然そのあとは仕事もありますので、大変な思いをしていらしたと思います。しかし、中には昼間の仕事ですごく疲れている方もいますので、仮眠をとられる方もいますが、火災となれば詰所の中のベルが、すごい大音量で響き渡るのでゆっくり寝ていられなかったそうです。現在は、午前0時まで待機していればいいので、家に帰る事が出来るので楽になったと言う話を多く聞きます。

夜警の期間は2ヶ月間にもわたります。その間には12月24日、25日のクリスマスもあります。家族で楽しく過ごしたい人もいますが、その日が当番の人たちは、大変気の毒だと思いました。私たちの分団は、だいたい1週間に1回の割合で当番が回ってきます。1週間に1度でも結構大変です。それでも、いろいろな体験談も聞けたりしますし、普段あまり話せない話を聞けたりするので結構楽しんでます。



第5分団詰所にて

新入団員研修を終えて

第二十二分団 団員 斉藤 利和

五月十一日、富士市公設地方卸売市場にて新入団員教育を受講しました。午前中に講義、午後からは訓練礼式・ポンプ車操作法を体験させていただきました。

講義については、知らなかった消防団活動の概要を聞くことができ大変参考になりました。また、訓練礼式・ポンプ車操作法については、大会の規律要員として訓練していたことや分団で行っている放水訓練において先輩方より指導を受けていたので容易にこなすことができました。全日程終了後に代表で修了証を頂く大役をおおせつかり身の引きしまった思いがしました。昼休みに足の運びや礼の仕方まで御指導いただき、消防団の規律に対する姿勢の厳しさをあらためて実感させられました。



「修了証交付」代表 第22分団 団員 斉藤利和

平成十三年に厚原に新居を構えたことにより第二十二分団に入団しました。当初、富士市の職員であることから年齢が三十七歳で高齢であることから断るつもりでしたが、分団長の熱心な勧誘により平成十四年八月から消防団活動に参加しています。

現在、公務員でありながら消防団員として活動している人が、数人おり、これからは公務員も消防団員としてどんどん採用し、活躍を期待していると富士市長のお話もあったと聞いております。東海地震のような大規模な災害の際には市の職員としての活動となってしまうですが、日常の災害時には、地域住民のために率先して活動できるような日々の訓練に参加し、貢献できるように努めたいと思います。

消防まつり

第十二分団 部長 秋山 勲

今年も秋の火災予防週間の行事の 일환として、十一月九日に富士市の消防まつりが晩秋の晴天のもと、賑やかに行われました。

私の所属する十二分団では、今年も恒例となりつつある焼きそばとチョコバナナを販売することになり、私自身バナナの皮むきや串刺しなど段取りに専念していました。

不慣れな手つきで悪戦苦闘しながら串刺しをしていた時、私は、昨年の消防まつりを思い出していました。

それは、私にとって長い一日でした。前日に分団長の御尊父様の逝去という訃報に接し、当日は、副分団長も都合が悪く、分団長・副分団長ともに不参加という状況で始まった十二分団の消

防まつりでした。

当日は、滞りなく無事に代行の役目をなんとかこなすことができたのではといまでも思っています。

しかし、正直なところ当日は、足が地につかず不安のまま、まつり本部とテントを往復しながら、責任をはたすべく走り廻っていた自分の姿を思い出します。

私自身貴重な経験となり団員一人一人の自信につながったのではないのでしょうか。

今日も、去年と同じ空のもとと去年と同様に忙しく動き廻る団員達。去年と違うのは、居るだけで安心できる二人が参加していること。来年も安心できる二人のもと、団員達の協力と一致団結で、晩秋の消防まつりを迎えるだろう。

消防まつり

第十四分団 団員 関 大助

今年の消防まつりも好天に恵まれてとても嬉しいことです。

わが十四分団は例年どおり焼きいかと焼きとうもろこしを出品しました。

僕は今年も朝から駐車場警備をしていましたが前年に比べ早く駐車場が一杯になったと思います。会場に戻ると歩くのもやっとの大盛況になっていました。十四分団のテントに戻るまで出会う人はみんな笑顔で、テント前で声を出して賞品を売る消防団員、お年寄



り、親子連れのお父さんお母さんそして何よりも子供さんが満面の笑みでまつりを楽しんでおり、そんな人ごみの中で自分まで楽しくなってきました。十四分団のテントに戻ると十人ほどのお客さんがイカとうもろこしが焼けるのを待っていました。分団のみんなが忙しく働いていて僕もテント奥でゆで解凍したとうもろこしに割り箸を指す作業に早速かかったほどです。おかげさまでお昼前には賞品が売切れてしまいました。他の分団も見て回ると大盛況の様子でした。いろいろな人たちが消防活動を知り、楽しく過ごせる消防まつりに来年も多くの人たちが参加してくれるよう分団の活動に励んでいきたいと思えます。

編集後記

消防団だよりを発行するに当たり、団員各位については消防団活動に対して熱心に取り組んでいただいた姿勢、また、それを支えるご家族の皆様については一丸となって応援して下さる気持ちのこもった原稿を多数寄せて頂いたことにつきまして厚く御礼申し上げます。

今年度は、市・支部・県査閲大会と長期に渡り訓練され、御苦労されました選手の皆様を紹介し、少しでも慰労になればと思ひ掲載しました。

消防団だよりが、市民の皆様にも広く理解して頂き予消防防の手助けとなる事を願い、紙面の一層の充実を図りながら、皆様に親しまれる紙面作りに努力して参ります。

今後とも御支援、御協力をお願い申し上げます。

富士市消防団広報紙編集委員

- 委員長 第六方面隊長 勝 又啓治
- 副委員長 第二方面隊長 第十二分団 副分団長 長 尾 文彦
- 委員 第二方面隊長 第二十五分団 班長 片 平 保夫
- 委員 第三方面隊長 第九分団 部長 柳 下 孝之
- 委員 第四方面隊長 第十三分団 班長 干 葉 和男
- 委員 第五方面隊長 第十八分団 班長 保 田 訓
- 委員 第六方面隊長 第二十二分団 団員 小 林 秀明